

様 式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 2 | 6 | 0 | 4 |
|---|---|---|---|---|

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 補助事業期間 平成23年度～平成25年度
5. 課題番号

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 3 | 5 | 3 | 0 | 9 | 1 | 9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
6. 研究課題 言語機能分析を用いた心理療法の効果研究

7. 研究代表者

| 研究者番号 | 研究代表者名 | 所属部局名 | 職名 |
|-----------------|----------|--------|----|
| 6 0 3 1 6 9 1 6 | フクシマ テツオ | 人間関係学部 | 教授 |
| | 福島 哲夫 | | |

8. 研究分担者

| 研究者番号 | 研究分担者名 | 所属研究機関名・部局名 | 職名 |
|-----------------|----------|----------------------|-----|
| 8 0 3 1 1 5 0 4 | カトウ スミ | 青森中央学院大学・経営法学部 | 教授 |
| | 加藤 澄 | | |
| 1 0 3 2 6 5 2 2 | イワカベ シゲル | お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科 | 准教授 |
| | 岩壁 茂 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

9. 研究実績の概要

実際の心理療法の8事例各2～5セッションを録音・録画したものを元にトランスクリプトを作成し、言語分析をおこなった。その中でもとくに感情を表す言語（評価言語）に関して、クライアントの発言とセラピストの発言の両方の分析を進めた。前年度の研究により言語分析・質的分析・音声分析ともに、感情や評価言語を中心にすすめることによって、セラピーのプロセスや効果の測定として有効な方法となりうることが示唆されたので、さらにデータを増やして分析を進めることと並行して、実際的な効果を検証する手続きの一つとしてクライアントへのインタビューも実施した。

現時点までで明らかになったこととして、成功したケースはセラピーの中でゆっくりとしたペースで長期的に感情表現が促進されていく様子がうかがわれた。とくにセラピー中期においてクライアントの感情面に十分に触れており、さらにその感情が内容的にも強度としても変化していくという特徴があると言える。そして、そのためにセラピストが十分な共感を示しながらも、そのクライアントの感情を肯定したり受け止める介入により、クライアントの感情調整をたすけ、その後さらにクライアントの「名詞化表現」や「メタ認知」を促進するような介入により、感情の肯定的方向への変化や安定化をはかっているということがうかがわれた。

また、クライアントへのインタビューは、とくにセラピストの肯定的な介入に関しては、病態による反応の違いがはっきりと表れた。そしてインタビュー時の振り返りの正確さや明確さには、やはり病態水準が関係していると思われた。